

## 〔カンショ〕

### 1. 作付の概況

2010年度の全国の作付面積は39,700haで、九州は19,600ha(前年対比2%減)であった。これは鹿児島県においてでん粉用の作付けが増加したものの、全国的に農家の高齢化に伴う労働力不足等により作付けが減少したことによる。全国の10a当たり収量は2,180kgで、前年産との対比で14%下回った。収穫量は863,600tとなり、前年産に比べて162,400t減少した(同16%減)。これは作付面積が前年産に比べて減少したことに加えて、春の低温、夏の多雨や乾燥などにより、10a当たり収量が前年産を下回ったためである。

### 2. 作柄の概況

鹿児島県では、4月の平均気温が平年より低く、それ以降は平年並みかやや高めに推移した。降水量は6月から7月が平年より多く、8月から9月は少なかった。日照時間は生育期間を通じて概ね平年より多かった。マルチ栽培では、植え付け後に適度な降雨があったため、活着は良好で、上いも個数は多くなった。しかし、4月の気温が低かったため、地上部の生育が遅れ、いもの肥大はやや抑制されたことから、10月収穫までは、収量は平年を下回った。一方、無マルチ栽培では、6月の降雨による畦の崩壊等の影響を受け、上いも個数は平年より少なくなり、収量は平年に比べて低かった。以上のことから、本年の鹿児島県の10a当たり収量は2,430kgで、前年産を500kg(17%)下回った。また、収穫量は347,500tで、前年に比べて68,600t(16%)減少した。

宮崎県でも、4月の平均気温は平年よりやや低く、7月以降は平年より高く推移した。6月から7月にかけて降水量は平年値を大幅に上回り、日照時間は少なかった。このため、植え付け期での苗の活着はほとんど問題はなかったものの、その後の地上部の生育は劣り、特に無マルチ栽培で不良であった。マルチ早掘栽培では、いもの肥大が劣り、標準マルチおよび無マルチ栽培では、上いも個数と1個重が少なかったため、平年より低収になった。以上のことから、宮崎県の10a当たり収量は2,540kgで、前年産を300kg(11%)下回った。収穫量は77,200tで、前年に比べて15,400t(17%)減少した。

(九州沖縄農業研究センターサツマイモ育種研究チーム 吉永 優)

2010年度カンショ作付面積と収穫量

区分	作付面積	10a 当たり 収量	収穫量	前年産との比較					
				作付面積		10a当たり 収量		収穫量	
				対差	対比	対比	対差	対比	
(ha)	(kg)	(t)	(ha)	(%)	(%)	(t)	(%)		
全国	39,700	2,180	863,600	△ 800	98	86	△ 162,400	84	
九州	19,600			△ 300	98				
福岡	170			△ 10	94				
佐賀	115			△ 1	99				
長崎	459	1,420	6,540	△ 73	86	80	△ 2,880	69	
熊本	1,210	2,230	27,000	△ 30	98	96	△ 1,900	93	
大分	305			△ 8	97				
宮崎	3,040	2,540	77,200	△ 220	93	89	△ 15,400	83	
鹿児島	14,300	2,430	347,500	△ 100	101	83	△ 68,600	84	
沖縄	254			△ 1	100				

注)平成22年産かんしょの収穫量(農林水産省統計部 平成23年2月15日公表)に基づいて作成

空欄は主産県以外の県で、公表データなし